



## 身近な楽器で笑顔生むハーモニー 鯖江たてぶえアンサンブル

学校の授業で、誰でもが一度は手にしたことがあるリコーダー。実は、手のひら大の小さなものから、大人の身長を半分を超す長さのものまで、多くの種類がある楽器だ。そんなリコーダーの魅力を見直し、たくさんの人と一緒に楽しもうと活動しているのが「鯖江たてぶえアンサンブル」の宮本颯斗(みやもと はやと)さん(31)、代田雅揮(しろたまさき)さん(35)、杉森 諭(すぎもり さとし)さん(31)の3人(いずれも鯖江市)。結成から2年ほどで、3月1日に鯖江市文化センターで開かれたオカリナコンサートの前座として、ロビーで演奏を初めて披露した。

3人は吹奏楽グループや個人で演奏活動をしている音楽仲間。得意な楽器もそれぞれだが、「リコーダーで遊んでみようか」と気軽な気持ちで集まった。普段は、鯖江市文化センターの練習室などで不定期に練習を行っている。「ピタゴラスイッチのテーマ」や「手のひらを太陽に」などの誰でも知っている楽曲や、思わず耳を傾けたくなるゲーム音楽のアレンジ演奏など、一般の人たちが楽しんで盛り上がるような楽曲を中心に、自ら編曲して演奏している。

「堅苦しくせず、とにかく楽しむことが大切。お客さんとの距離感を近くして一緒に楽しみたい」と話すのは、アルトリコーダーなど中間の音域を担当する代田さん。低音担当の

杉森さんは「バスリコーダーなどは大きくて、見た目のインパクトでも楽しんでもらえるのがうれしい」とニコリ。「ちゃんと吹くのは難しいが、誰にでも音は出せる楽器。たくさんの人にリコーダーの魅力を再発見してほしい」と、高音担当の宮本さんは呼び掛ける。「いつか演奏会でお客さんにもリコーダーを持ってきてもらい、大人数で合奏してみたい」と、3人は



それぞれの担当楽器を手に、左から代田さん、宮本さん、杉森さん

和気あいあいに語る。今後は鯖江市を中心に、町内会や福祉施設などで演奏会を開催していきたいとのこと。3人のリコーダーのハーモニーに、ぜひ耳を傾けてほしい。

## 果実香る麦茶でリフレッシュ

これから暑さが増す季節に欠かせない麦茶。ノンカフェインで胃にやさしく、水分とミネラルを補えることから、昔から夏の定番として親しまれてきた。

お茶の老舗・三國屋善五郎では、2008年に「フルーツ麦茶」を発売。以来、毎年新しい香りのフレーバーを販売し、今では客の声に応じて人気の5種類を看板商品として通年で扱っている。二種類の国産麦茶を細かく砕き、水出しでもしっかり香りが出るよう工夫。香ばしくやさしい麦の風味に、フルーティーな香りを重ねた「フルーツ麦茶」は、後味まで爽やかな飲み心地が魅力だ。



日本茶を中心に紅茶や中国茶、健康茶、ハーブティーまで豊富な種類が並ぶ

### 人気の秘密 その1

**ゴクゴク飲めるフルーティーさ**  
芳醇でフルーティーな香りと、すっきりとした爽やかな甘みが口いっぱいに広がり、まるでフルーツをそのまま味わったような余韻が残る。麦茶ならではの香ばしさとも相性がよく、思わずゴクゴク飲みたくなる味わいだ。

### 人気の秘密 その2

**ノンカフェイン・ノンカロリーで安心**  
フルーツティーのような甘みを感じるのに、ノンシュガーでゼロカロリー。ダイエット中の人はもちろん、妊娠中・授乳中の人にも安心。出産祝いの贈り物としても喜ばれている。



### 人気の秘密 その3

**定番に季節限定を加え、選ぶ楽しさも**  
全9種類のフレーバーから、その日の気分に合わせて選べるのも魅力の一つ。職場や学校に持っていく水筒のお茶を、朝の気分で選ぶ楽しさがある。定番は「ぶどう」「れもん」「はくどう」「シャインマスカット」「アップルマンゴー」の5種類で、なかでも一番人気の「ぶどう」は発売当初からのロングセラー。季節限定の「りんご」「パイナップル」「グレープフルーツ」「フルーツミックス」もそろい、旬の香りを気軽に味わえる。

### 人気の秘密 その4

**ギフトにぴったり。誰にでも贈りやすい安心感**  
水出しで手軽に作れ、カフェインも糖分もゼロ。相手の好みや体調を気にせず贈れるため、ギフトとして人気だ。かわいらしいパッケージは受け取った人にも喜ばれ、常温保存OKで気軽に渡せる万能ギフト。

### 人気の秘密 その5

**手間いらずで簡単に作れる**  
ティーバッグ1つに水1リットルを注ぎ、2〜3時間置くだけで完成。朝、マイボトルに入れて出掛けると、お昼時にはおいしく楽しめる。



**三國屋善五郎**  
●坂井市春江町江留中39-13  
●0776-51-5959  
●午前10時〜午後6時  
●あり  
●日曜日



あわら市 | ●坂井市  
はまのり | ●坂井市  
アルファ | ●坂井市  
アスター | ●坂井市

大阪造幣局の桜道。当時は育休中での、のんびり母と2人で桜を見ながら歩いたのが忘れられません。(坂井市 50代 女性)

部屋から見える近所の公園の桜。障子の襖を外しハニカムシェードに変えると、窓から額に入った1枚の絵に見える。(勝山市 60代 女性)

道明寺の桜餅! 金沢市出身の夫は長命寺が好きなので毎年争っていたのですが、今年は2個ずつバックが発売されました。平和に2個ずつ食べています。(福井市 50代 女性)

香水。練り香水とスプレータイプと2種類持っています。同じ桜でも、付けた後の香りの濃い方が違うので、気分によって使い分けています。(若狭町 20代 女性)

押し花。葉を作りました。花びらだけのもの、花のままのもの、その両方を挟んだものどのように挟んでもきれいです。種類の異なる桜同士で作ってもかわいらしいので、つい色々なデザインで作ってしまいます。(敦賀市 30代 女性)

投稿募集  
投稿してくださった皆さま、ありがとうございます。次回のテーマは「出会い」です。エピソードを添えて教えてください。※内容を変えない範囲で手直しすることがあります。ご了承ください。

桜の雑学  
花見の歴史  
～主役は桜じゃなかった?!～  
日本で花見が始まったのは奈良時代だと言われている。ただ、当時は梅の花を貴族たちが観賞するというのが主流。桜は神聖な木で、見て楽しむ対象とは考えられていなかった。それが、遣唐使が廃止された平安時代から桜を愛するようになった。豊臣秀吉が盛大に花見を主催したことで宴会行事として定着するようになり、江戸時代には庶民の間にも花見が広まった。

なぜさくらんぼがならない?  
花見で目にする多くがソメイヨシノという観賞用の桜。クローン桜と呼ばれ、同じ遺伝子を持っているため自分自身の花粉では受粉できない。近くに異なる種類の桜の木があれば実を結ぶが、食用には向いていない。食用のさくらんぼができる桜は海外を原産とするもので、日本で栽培されているほとんどは「西洋実桜(せいようみざくら)」からなる。佐藤錦・紅秀峰(べにしゅうほう)・ナポレオンなど

桜はバラ科に分類される  
基本構造が類似していることが理由。「花卉が5枚ある」「雄しべが多い」「雌しべが中心に1つある」という共通点がある。特徴は花卉が1枚1枚分かれていること。花東などで使われるバラは品種改良されているが、本来なら野生のバラには花卉は5枚しかない。  
バラ科の植物は他にもあり、イチゴ・ナシ・リンゴ・モモなどの果実やアーモンドなど、身近な食べ物も分類される。

個人情報保護法  
さんぽみちでお客さまに記入いただいた個人情報は、さんぽみちとお客さまの地域の販売店において適切に管理し、プレゼントのお届けに活用させていただきます。

## 今月の読者アンケートプレゼント

紙面をより良くしていくためにアンケートにご協力ください。当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

**方法** ①希望のプレゼント ②住所、氏名、年齢、性別、電話番号 ③現在購読の新聞名 ④さんぽみちへのご意見・ご感想 ⑤読者からのお便りコーナー、テーマ「出会い」への投稿を記入の上、下記のいずれかの方法でお送りください。

■はがき [宛て先] 〒910-0005 福井市大手3-2-13 中日新聞分室内 「さんぽみち4月号プレゼント」係

■メール osanpo@fukuikoho ID:@059fzwww  
■LINE @059fzwww  
■ホームページ 投稿フォームから

**スタッフ日記**  
最近の散歩は、下を見たり上を見上げたりと視線が忙しいです。「道ばたに春の野花は咲き始めたかな」「木々のつぼみはどうだろう」「鳥の声は聞こえるかな」。そんなことを考えながら歩く時間が楽しみのなっています。もちろん、周囲に気を配って安全第一でというのは当然ですが、風の冷たさも和らぎ、いつもの道を軽やかな気分でするこの時期は、1年で一番心が浮き立ちます。皆さんは、どんなところに春の始まりを見つけていますか。

## 家族で春のお出かけ 伝統にふれる体験を

越前町の越前陶芸公園では、4月初旬から中旬にかけて桜が見頃を迎える。花見と合わせて越前焼に親しんでみてはいかが。

施設内で開かれている陶芸教室では、地元の陶土を使った陶芸体験が楽しめる。人気が高く海外から訪れる人もいるとのこと。「絵付け体験」「手ひねり体験」をはじめ「陶あかり作り体験(※1週間前までに要予約)」などを通年で実施。しだれ桜まつりの際には「桜の小皿づくり」も体験できる。

資料館では日本遺産に認定された越前焼の歴史や魅力を展示を通してじっくり体感できる。鎌倉時代に使われていた「あな窯」の実物大復元模型や、両手を広げても抱えきれない大壺は必見だ。



絵付け体験の器は一つ一つ窯手作り。子どもにも薦め



資料館のコーディネート体験コーナー。好きな越前焼の器に食品サンプルを盛り付けて楽しめる



「あな窯」の実物大復元模型

焼き物文庫コーナーには陶芸が題材の漫画も

## 第14回越前陶芸村 しだれ桜まつり

4月11日(土) 午前9時〜午後5時  
12日(日) 午前9時〜午後4時  
陶芸村3大祭りの一つ。全国各地からクラフト店、フード店、陶芸店などが約160店舗並び、陶芸王選手権などのアトラクションも開かれる。夜には桜が燈籠とぼんぼりの光で彩られる。

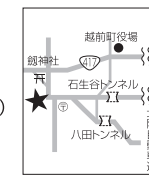


越前焼の壺をバズルコーナーで遊ぶ

入館料 一般300円(常設展)  
(高校生以下・70才以上は無料)  
陶芸体験 絵付け体験 800円〜  
手ひねり体験 1,500円  
電動ろくろ体験 3,500円  
陶あかり作り体験 1,500円

## 越前陶芸公園 福井県陶芸館

●越前町小曾原120-61  
●0778-32-2174  
●午前9時〜午後5時(入館は午後4時30分まで)  
●月曜日(祝日の場合は開館)、祝日の翌日  
●年末年始  
ホームページで情報発信中



## わが家を南国リゾートの香りに プルメリア専門園芸店「メリア・ガーデン」

ハワイでレイ(首飾り)に使われる花として親しまれているプルメリア。中南米やカリブ海諸国が原産の熱帯植物で、「神の宿る花」や「楽園の使者」とも形容され、幸せの象徴のような香りが人々を虜にする。

この南国の花プルメリアを雪国の福井で専門に取り扱う園芸店がある。坂井市三国町の「メリア・ガーデン」だ。ここでは、世界に1,000種もあるというプルメリアの品種の中から50種ほど、約1,000鉢を2棟のビニールハウスで育成し販売している。オーナーの山崎英夫さん(67)は「バリ島のリゾートホテルに植えられていたプルメリアの花の香りが旅の記憶と重なっている。町を歩くと庭木としてあちこちに植えられており、町中にプルメリアの香りが漂っていた」と、この花に魅了されたきっかけを話す。約10年前から趣味として育て始め、試行

錯誤を重ねて経験を積み、ハウスを建てた7年前に本格的な栽培を始めた。山崎さんによれば「熱帯の植物だけに暑さには強いが寒さに弱い。5℃以下で枯れてしまうので、冬でも15℃以上になるよう温度管理が大切。逆に春から秋にかけては丈夫で世話の水やりだけで良い」そうだ。購入すると丁寧な育て方や冬越しの仕方を教えてもらえるとのことだ。四季がある日本では開花は早くても今月末ごろだそう。プルメリアで日常に小さな「楽園」を育ててみては。

メリア・ガーデンはプルメリアの開花に合わせてオープンする予定。販売価格は1,000円台から5,000円で、品種によってさまざま。希少種や大きさによっても価格が異なる。このほかモンステラやハイビスカスも育てていて、あわら市の農産物直売所「きららの丘」で販売することもある。



品種によって花の色は白、赤、黄色とさまざま。ハウス内にはたくさんの鉢が並んでいる



オーナーの山崎さん。後方はプルメリアを育成しているハウス

## メリア・ガーデン

●坂井市三国町崎65-1-33  
●080-6360-8352  
●留守の場合もあるので、訪問するときは事前に連絡を入れておくのが確実

